

新たな未来を築くために，高等教育 と初等中等教育に求められること

-第7回理系AO入試フォーラム-

川嶋太津夫

神戸大学

2013年3月9日



アウトライン

- 高校教育の現状と課題
- 高大接続と大学入試の現状と課題
- 大学入試改革の方向性(私案)と課題

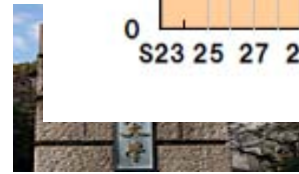
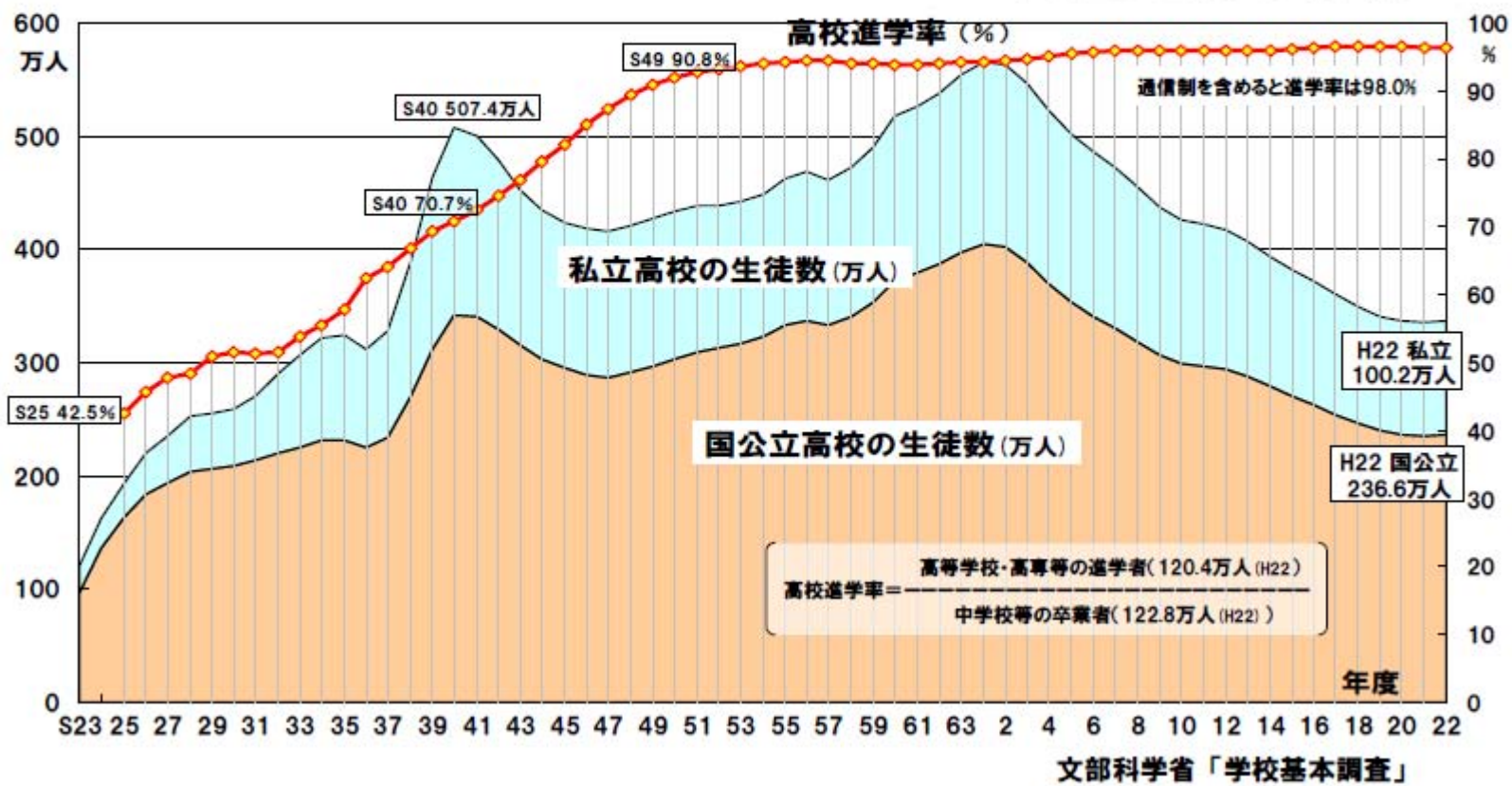


高校教育の現状と課題（高校生の多様化）

高等学校等への進学率[推移]

高等学校等への進学率は着実に向上し、昭和49年度に90%を超えた

(国公私立の全日制・定時制の計)



高校教育の現状と課題(高校の多様化)

学科別生徒数の構成割合[推移]

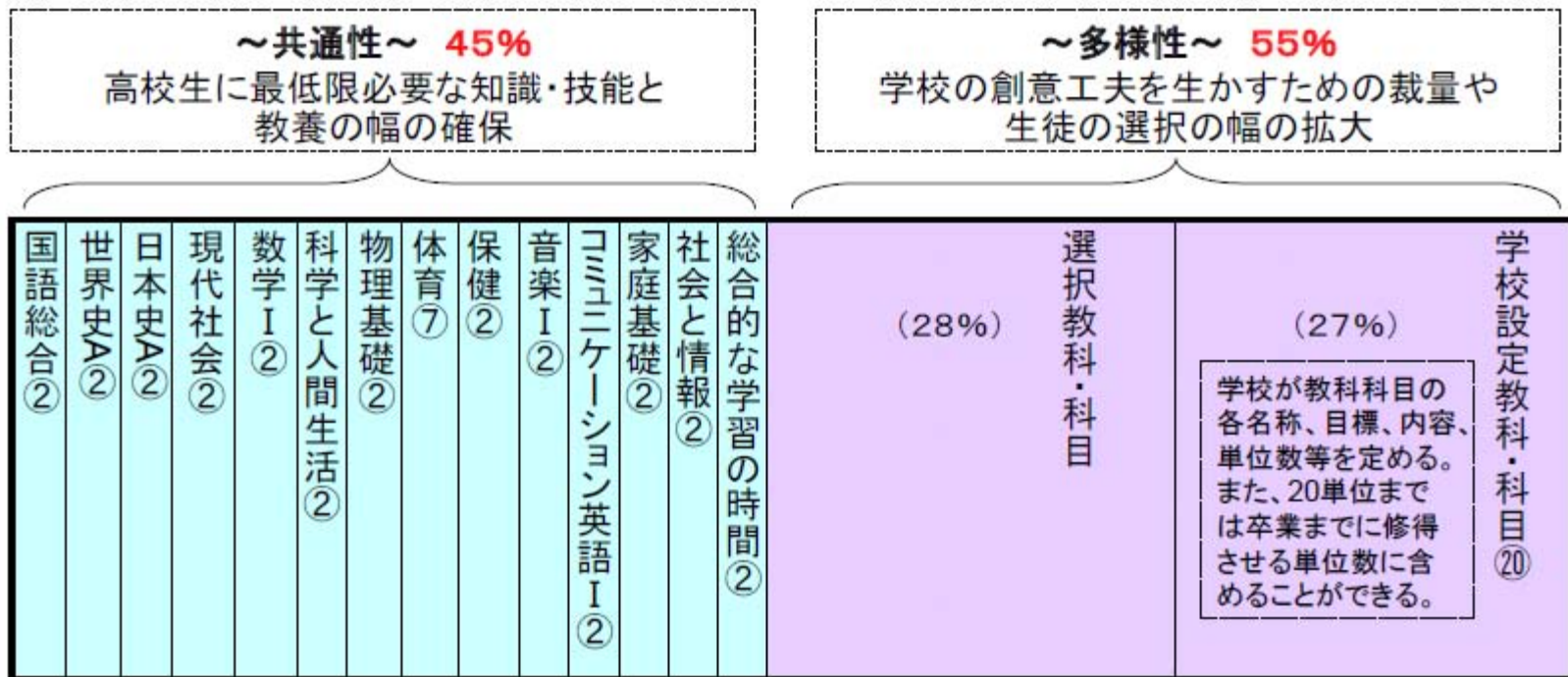
職業学科の比率は年々減少。普通科は最近20年間、ほぼ一定(約7割)で推移



※総合学科は平成6年度より制度化。「その他の専門学科」には、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科がある。
 文部科学省「学校基本調査」

高校教育の現状と課題(学びの多様化)

卒業に必要な最低限の単位数
(イメージ)



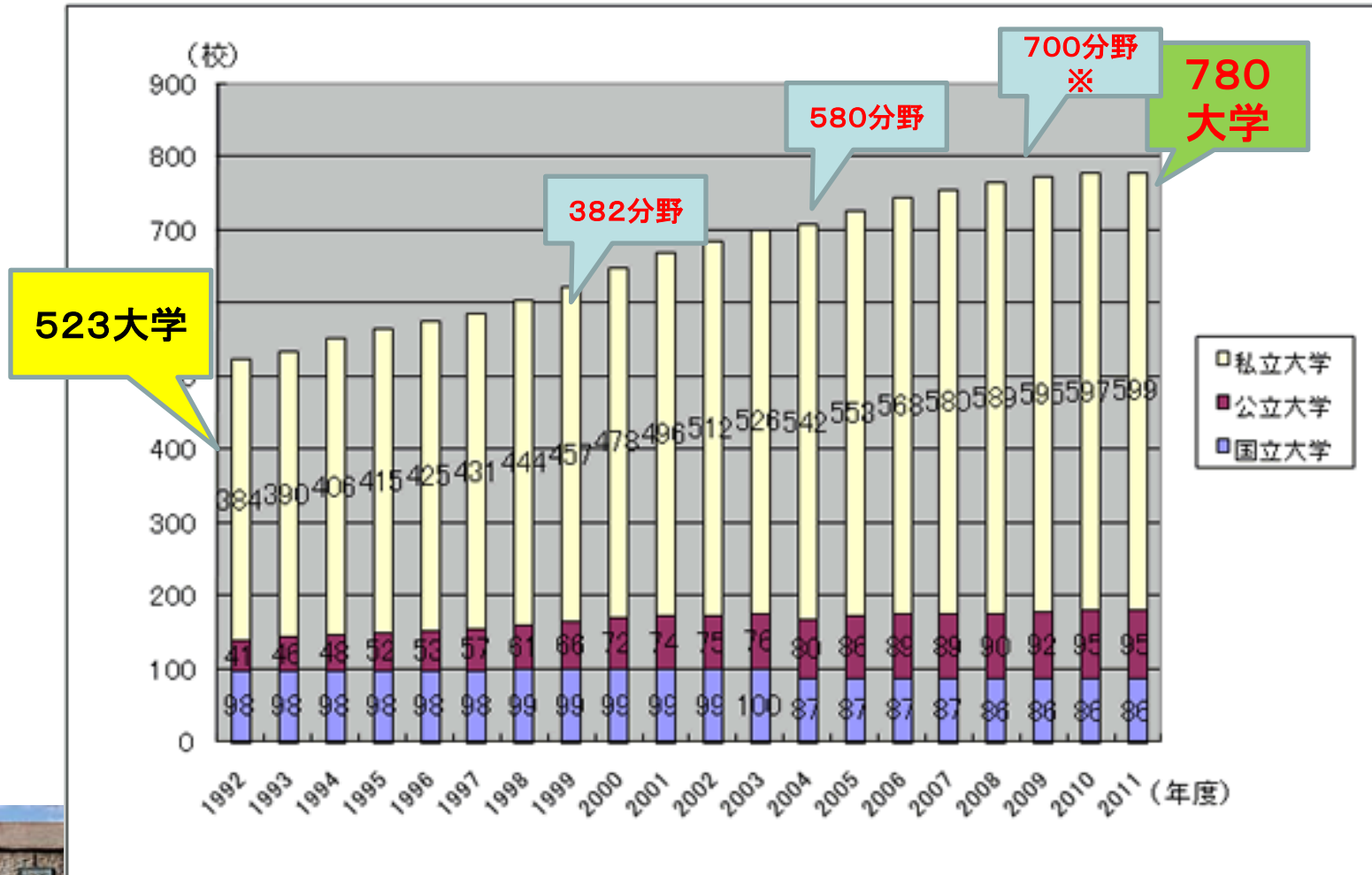
高校教育の現状と課題(学びの多様化)

高等学校(普通科)における 卒業までに修得すべき単位数の推移



全体の単位数に占める必修教科・科目の割合

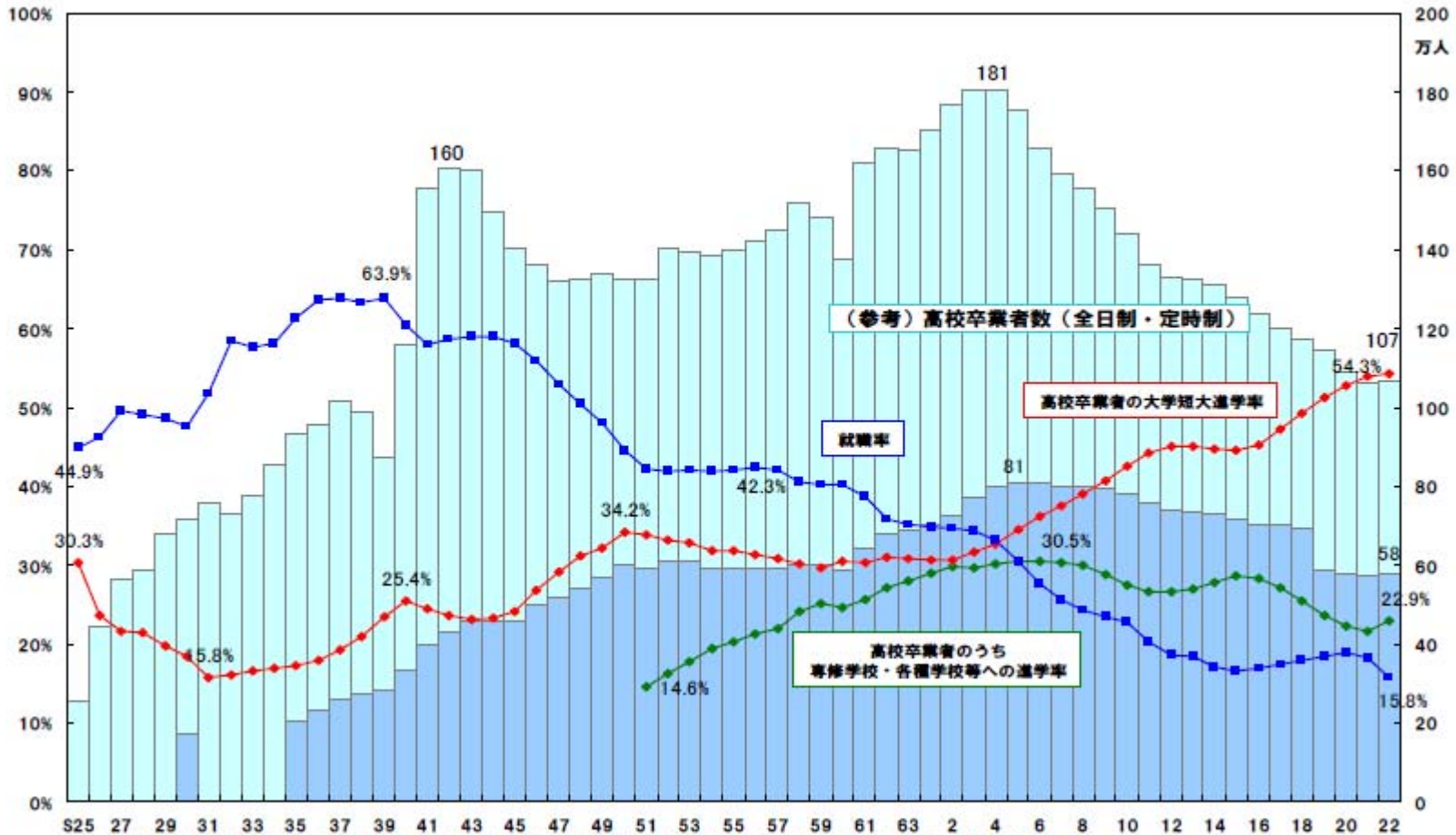
大学の増加・多様化



※概算

大学生の増加・多様化

高等学校卒業者の進路 [推移]



「大学短大進学率」は、昭和58年度以前は通信制への進学を除いており、厳密には59年度以降と連続しない。

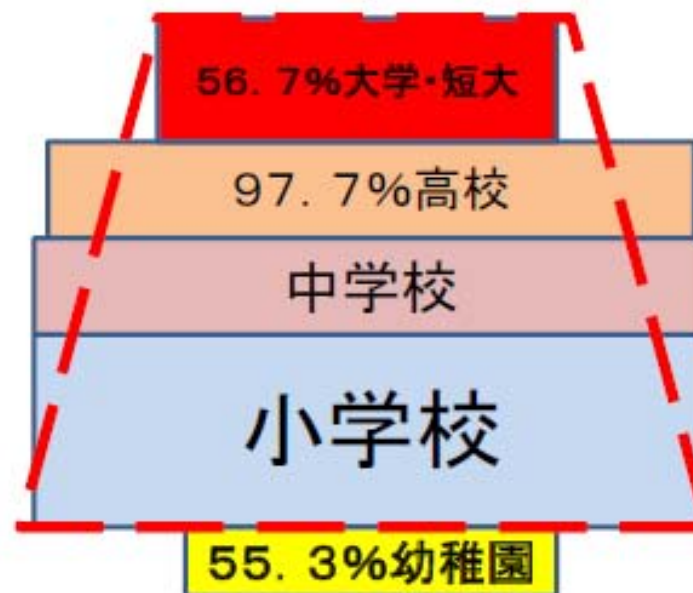
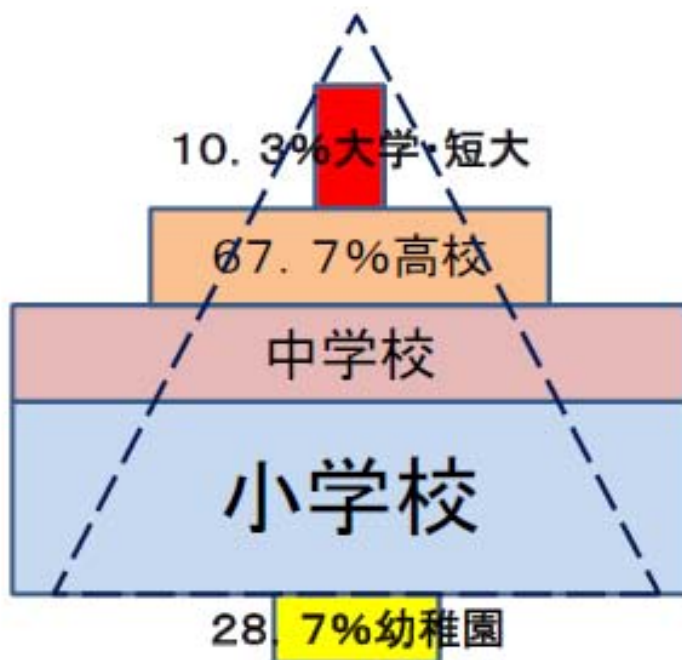
文部科学省「学校基本調査」

変わる高大関係

1960年

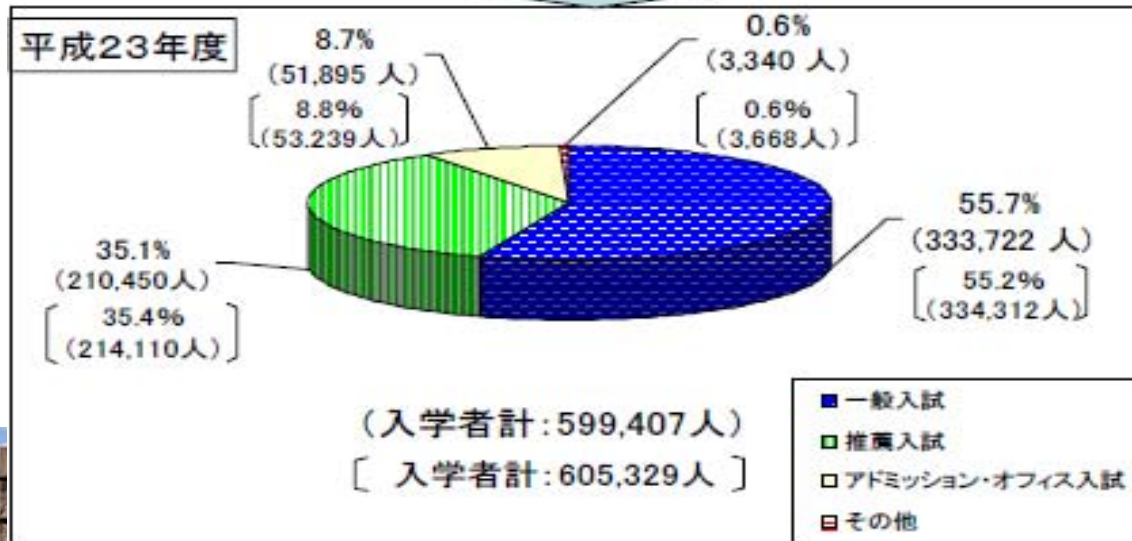
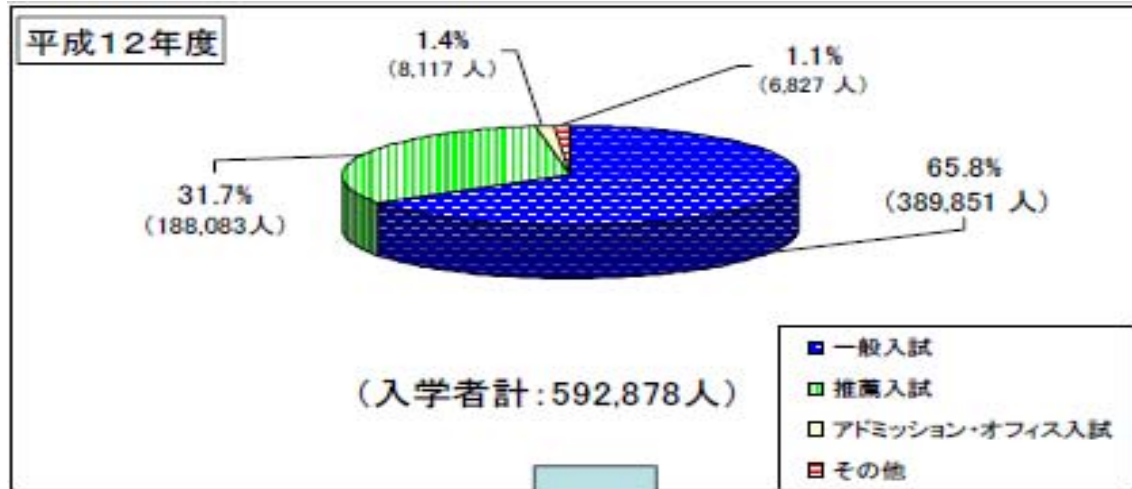


2011年



荒井克弘(2005)、「入試政策から接続政策への転換」、
荒井克弘・橋本昭彦編『高校と大学の接続』 玉川大学出版部 を改編

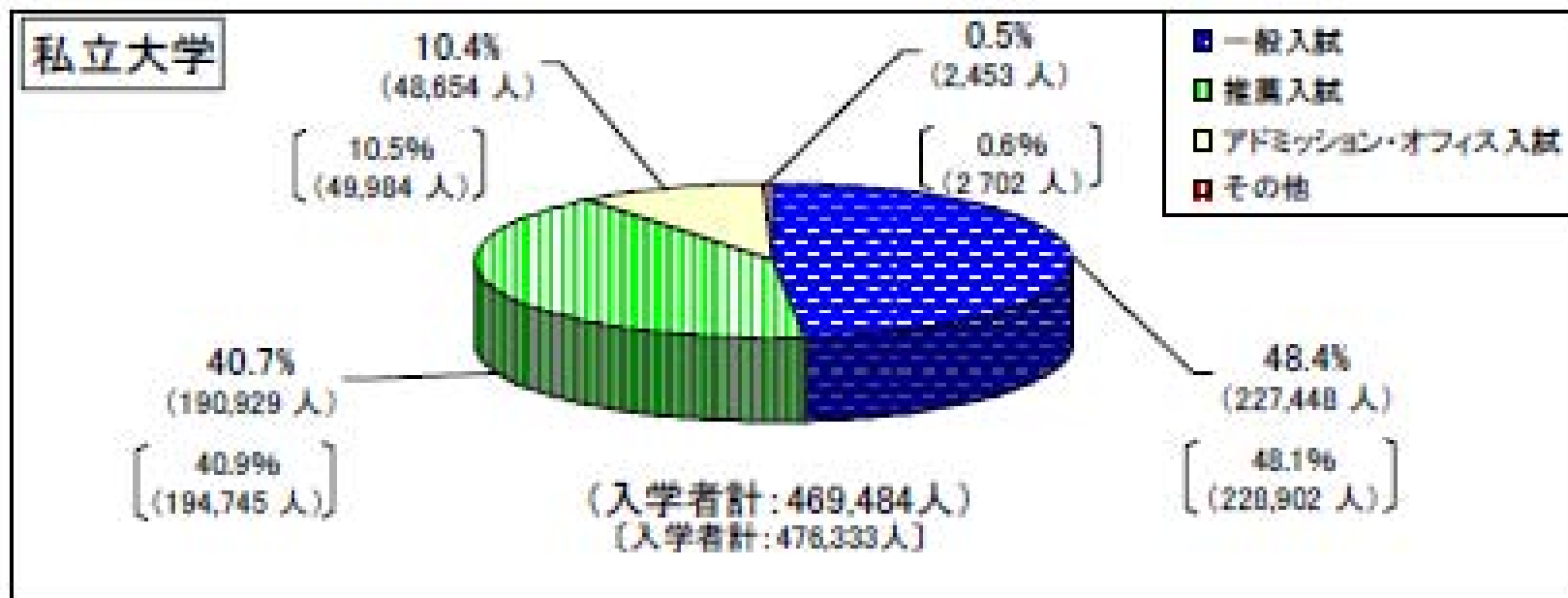
大学入試の多様化



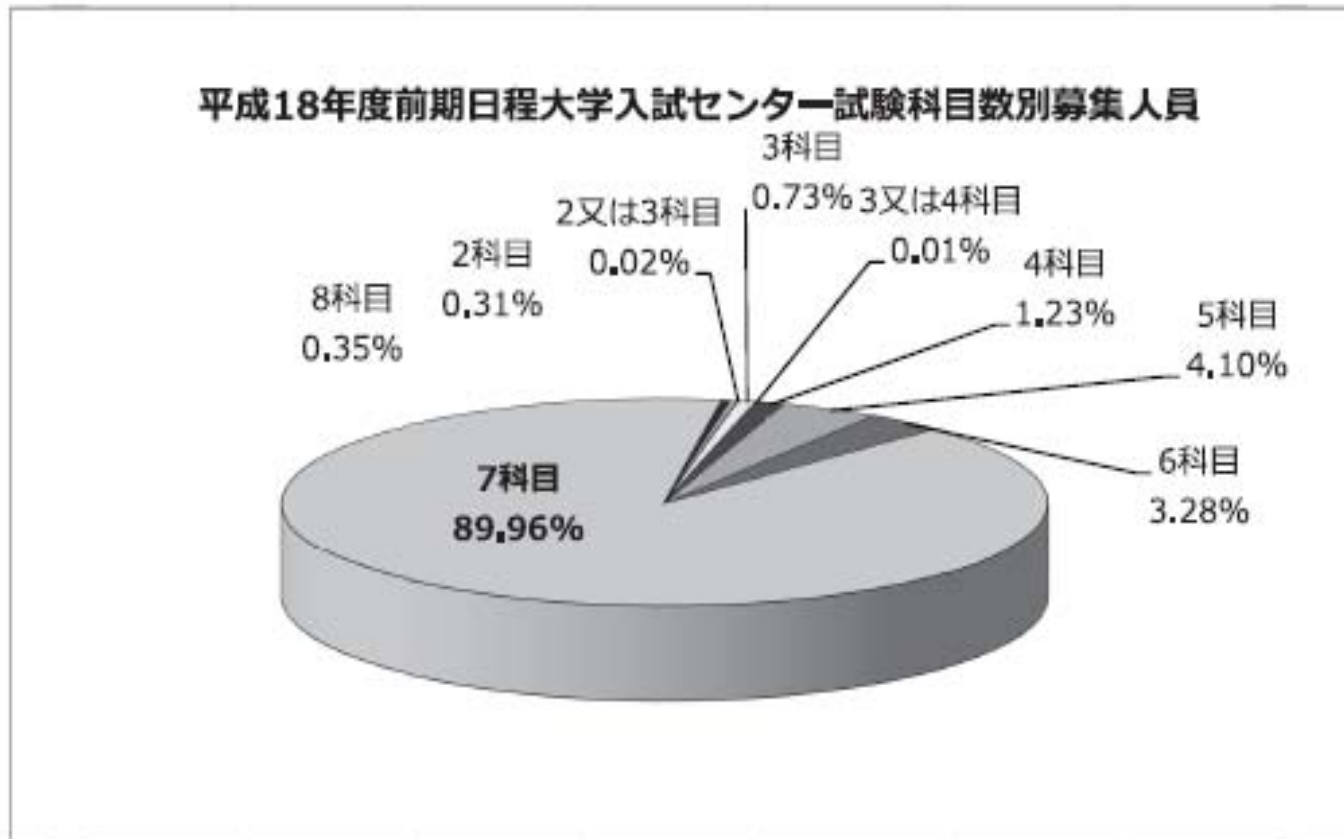
※ []内は、平成22年度の数値を示す。
 (注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

出典: 文部科学省大学入試室調べ

大学入試の多様化

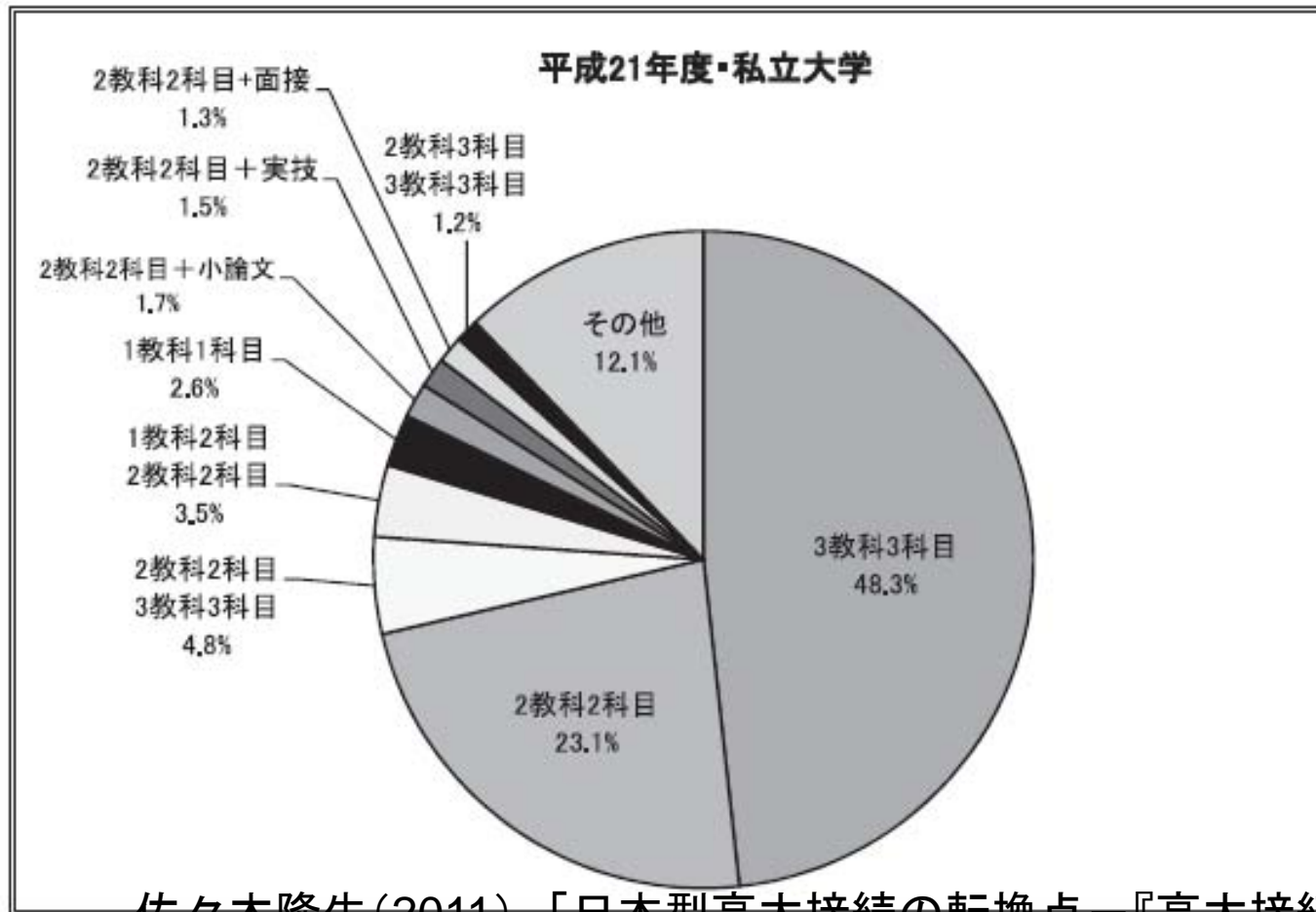


大学入試の多様化



佐々木隆生(2011)、「日本型高大接続の転換点—『高大接続テスト(仮称)』の協議・研究をめぐって」、北海道大学公共政策大学院編 『年報 公共政策学』 第五号 12

大学入試の多様化

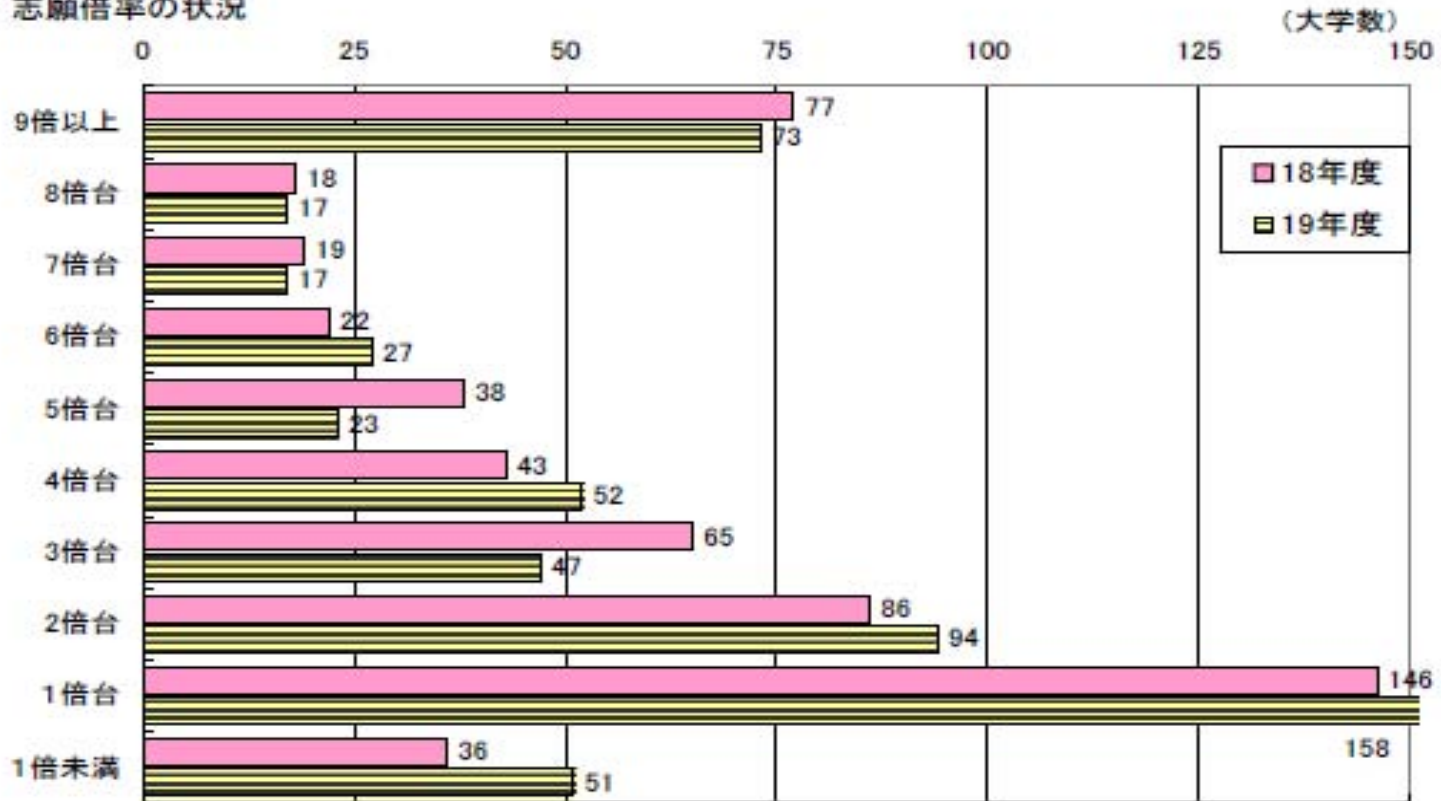


佐々木隆生(2011)、「日本型高大接続の転換点—『高大接続テスト(仮称)』の協議・研究をめぐって」、北海道大学公共政策大学院編 『年報 公共政策学』 第五号



大学入試の多様化の現実

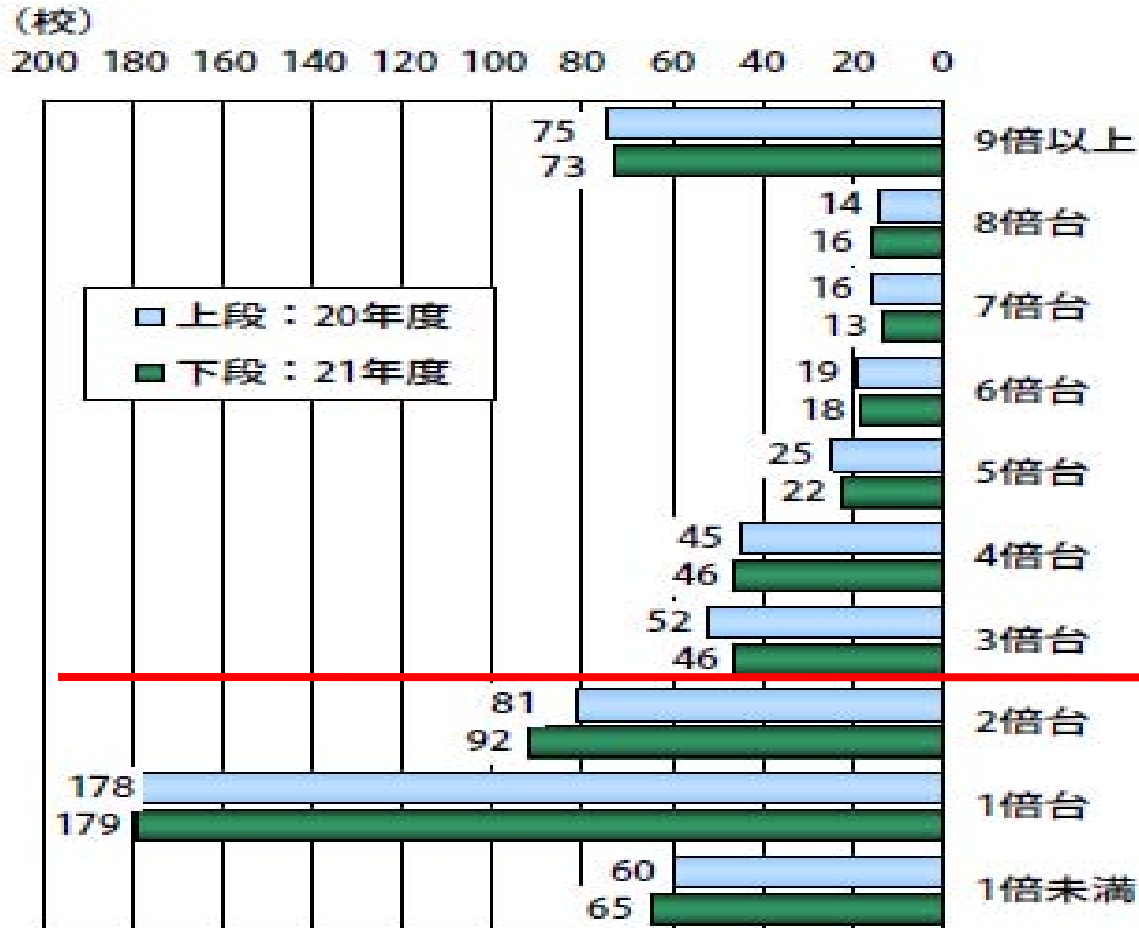
① 志願倍率の状況



二極化



大学入試の多様化の現実

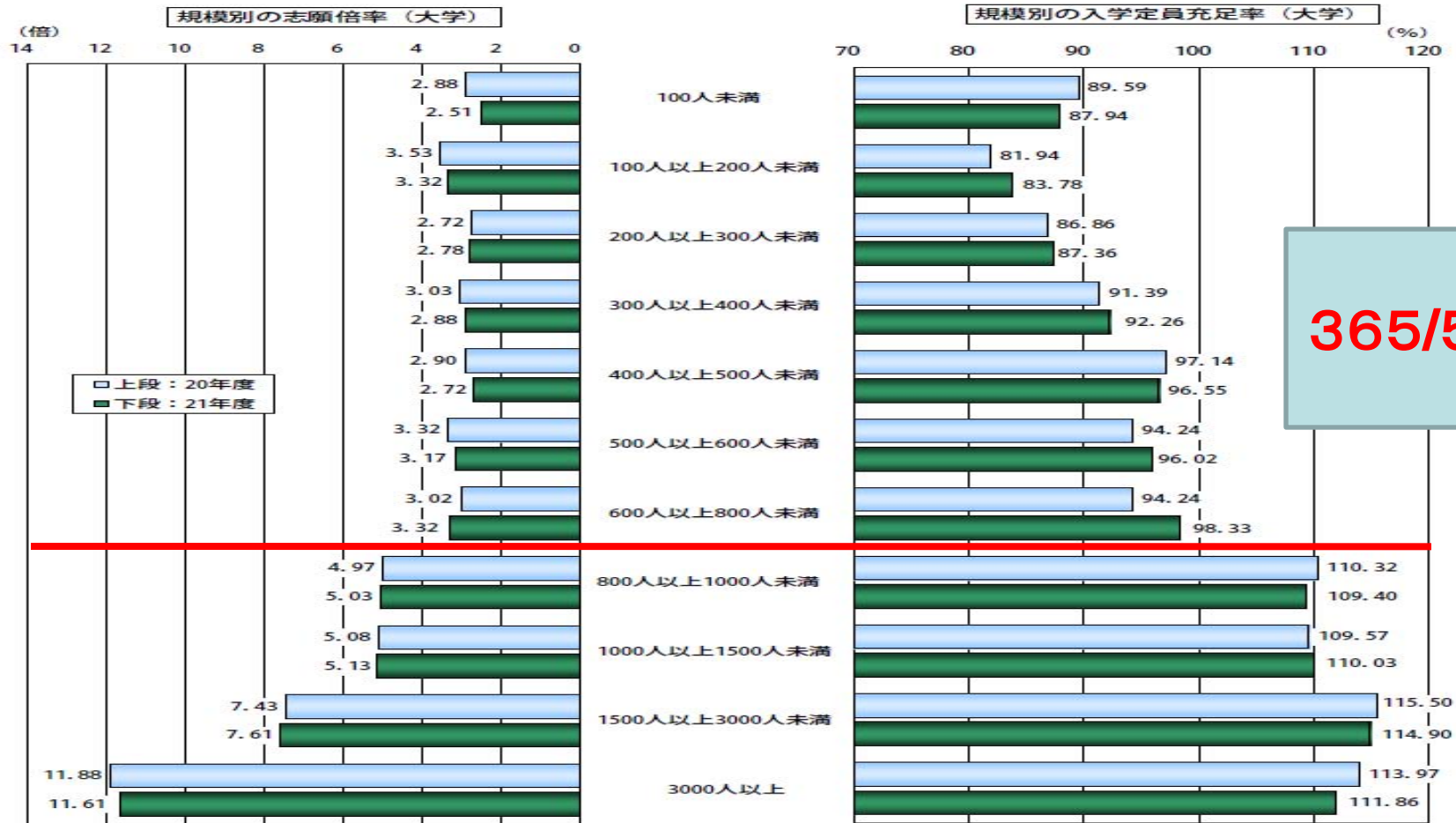


336/570

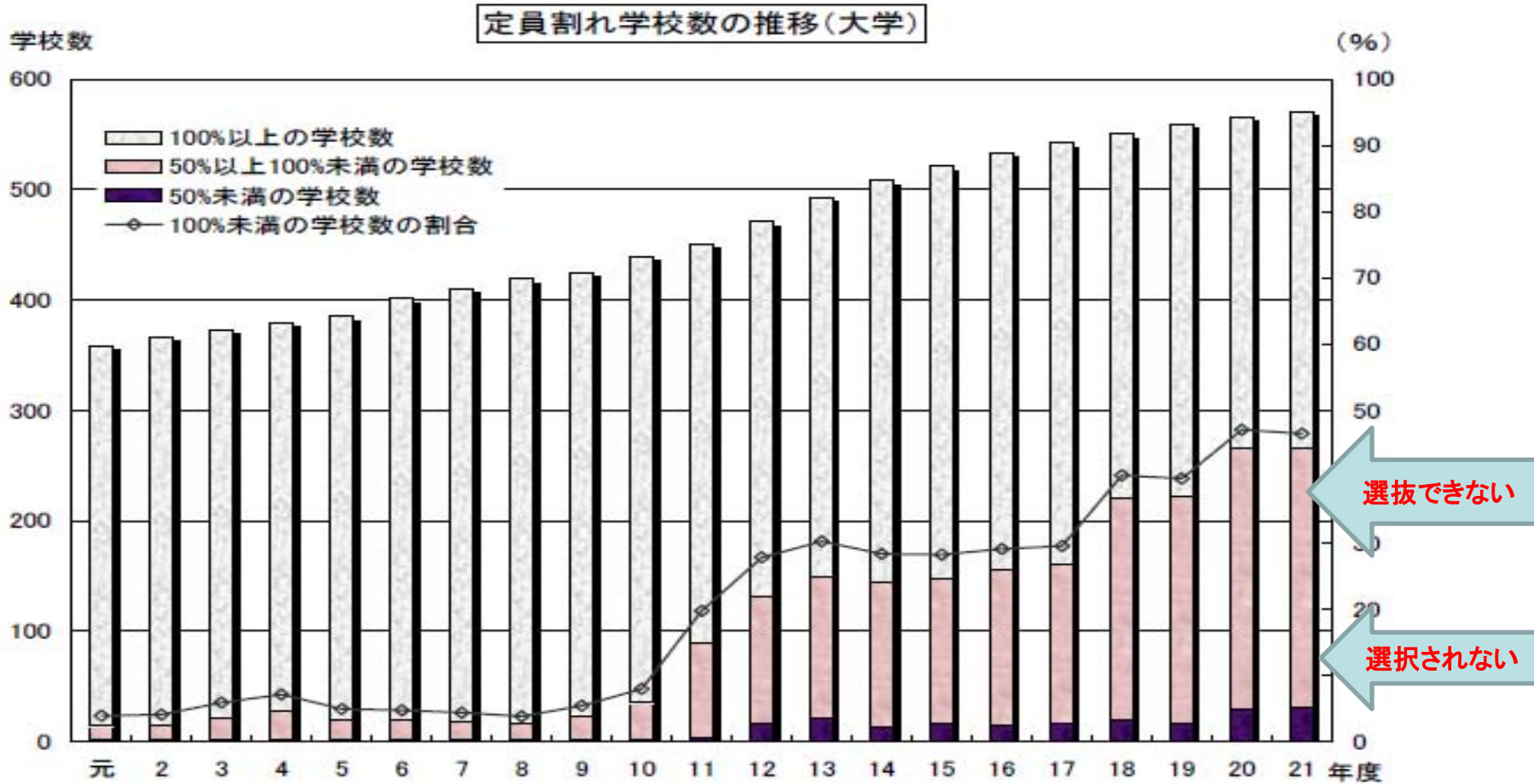
日本私立学校振興・共済事業団
「私立大学・短大等入学志願動向」



大学入試の多様化の現実



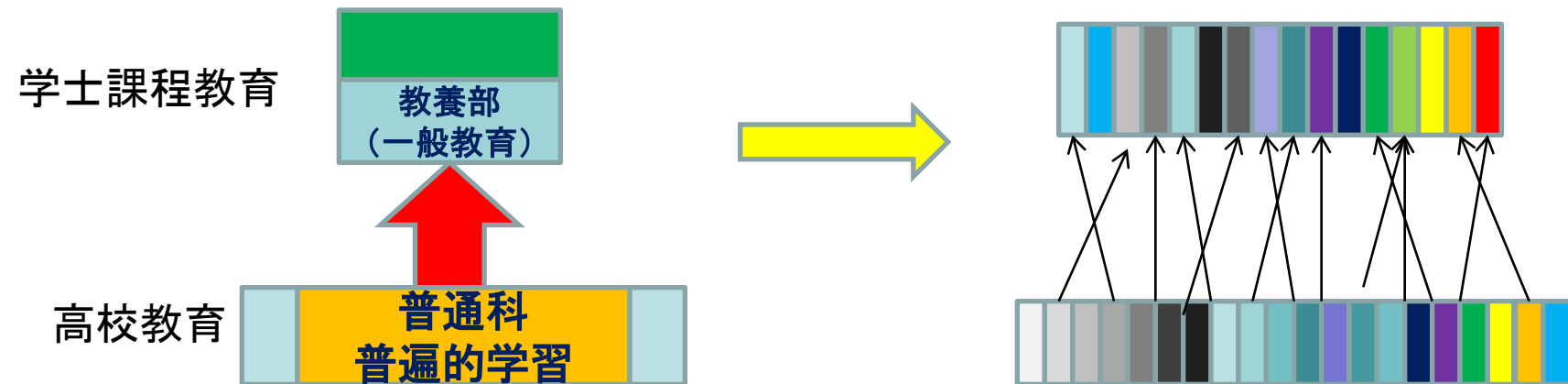
大学入試の多様化の現実



日本私立学校振興・共済事業団
「私立大学・短大等入学志願動向」



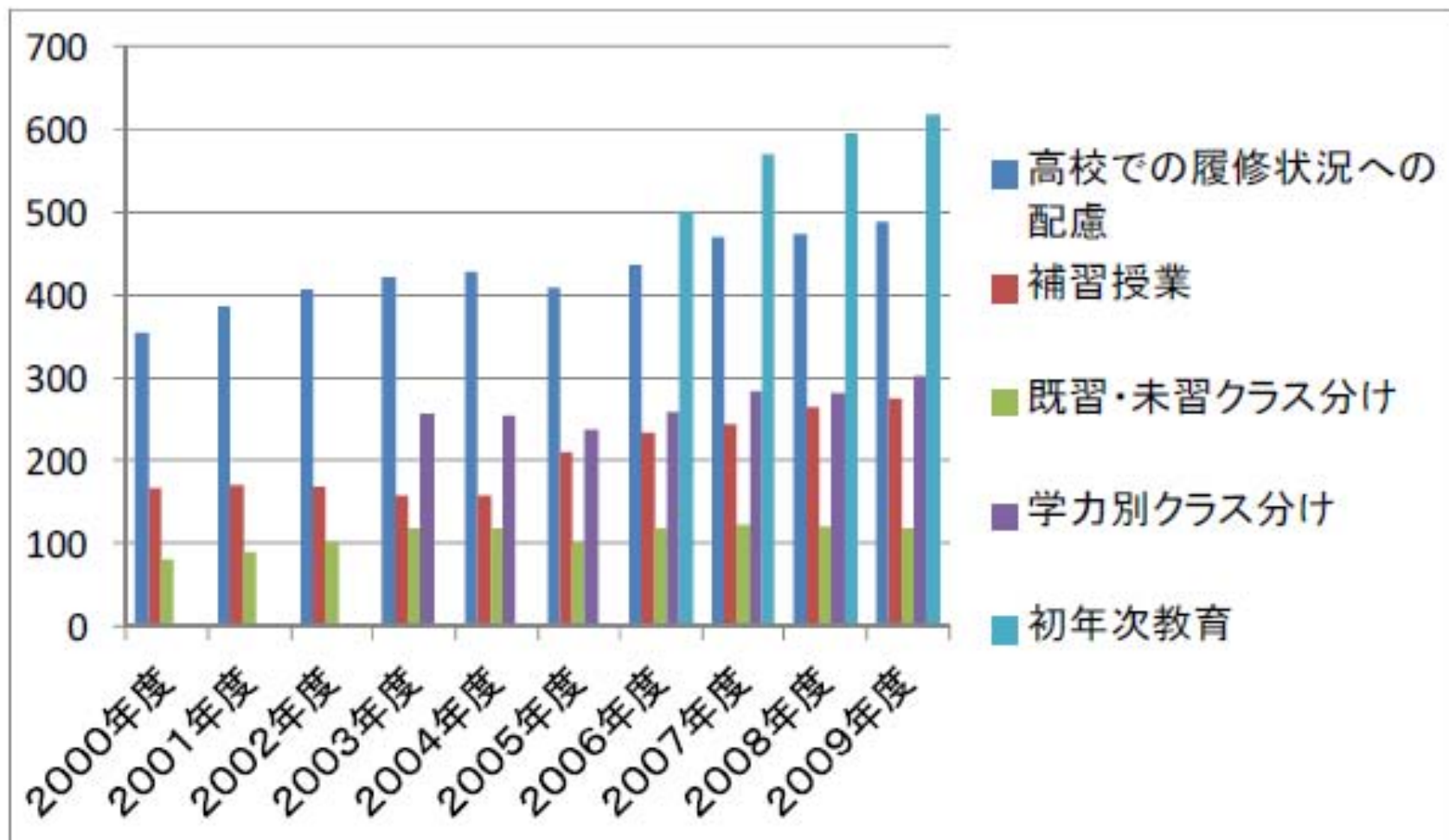
変わる高大接続関係



普遍的な学習接続から限定的な学習接続



多様化の帰結



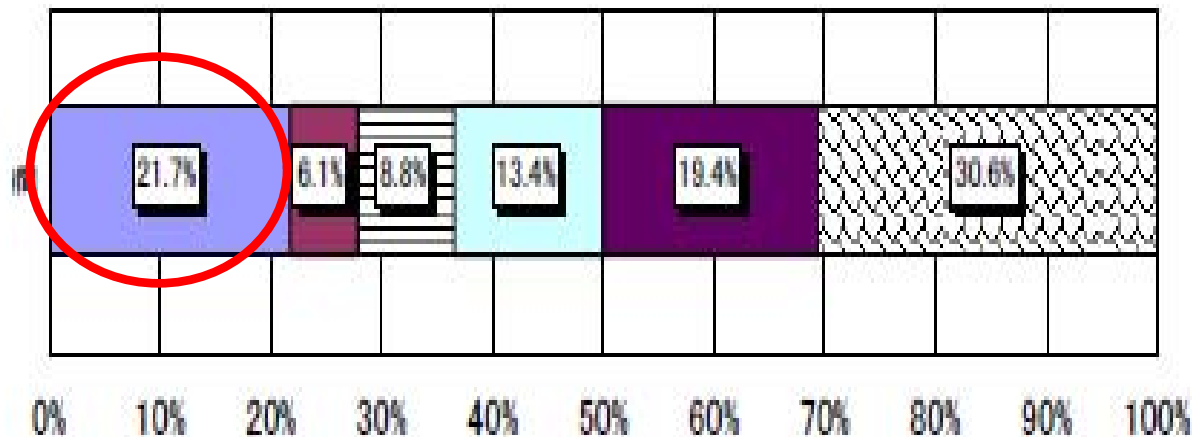
(出所) 文部科学省 「大学における教育内容等の改革状況について」各年度版



ほとんど勉強しない高校生2割 それでも大学に入学できる

【入学前】

高校3年生の秋の平日の
勉強時間
(※大学進学を希望する
者)



■ほとんどしない ■30分程度 □1時間程度 □2時間程度 ■3時間程度 □4時間以上



高校の時に勉強しておけばよかった と後悔する大学生は7割

【入学後】

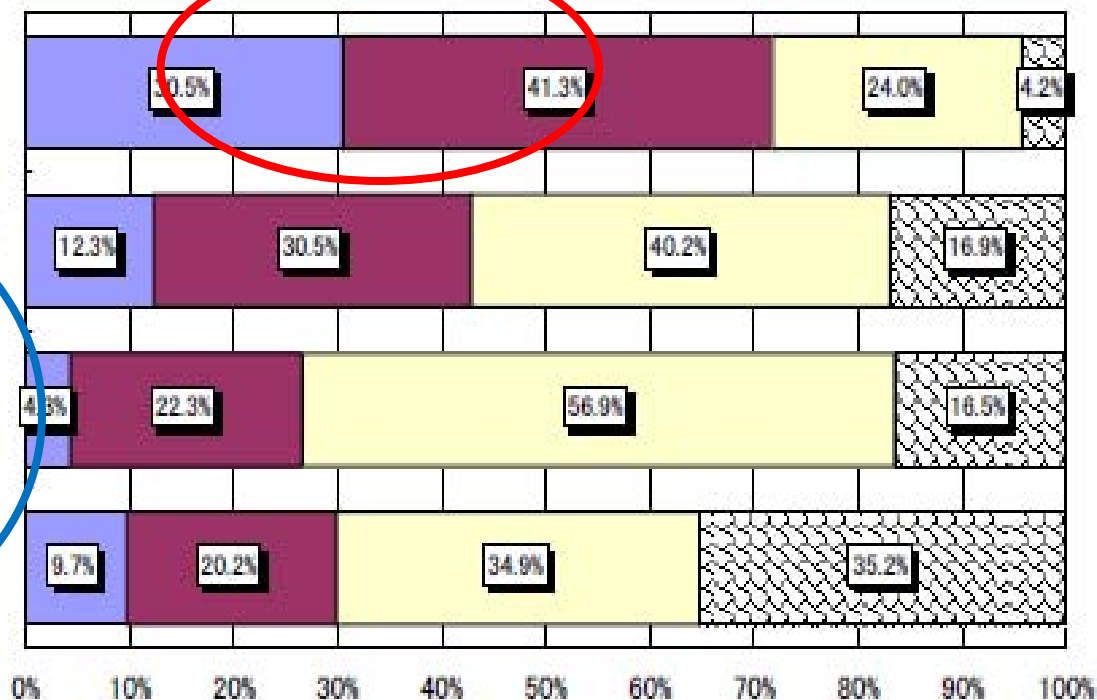
高校のとき、もっと勉強しておけばよかった

やりたいことが見つからない

授業についていけない

高大接続の課題

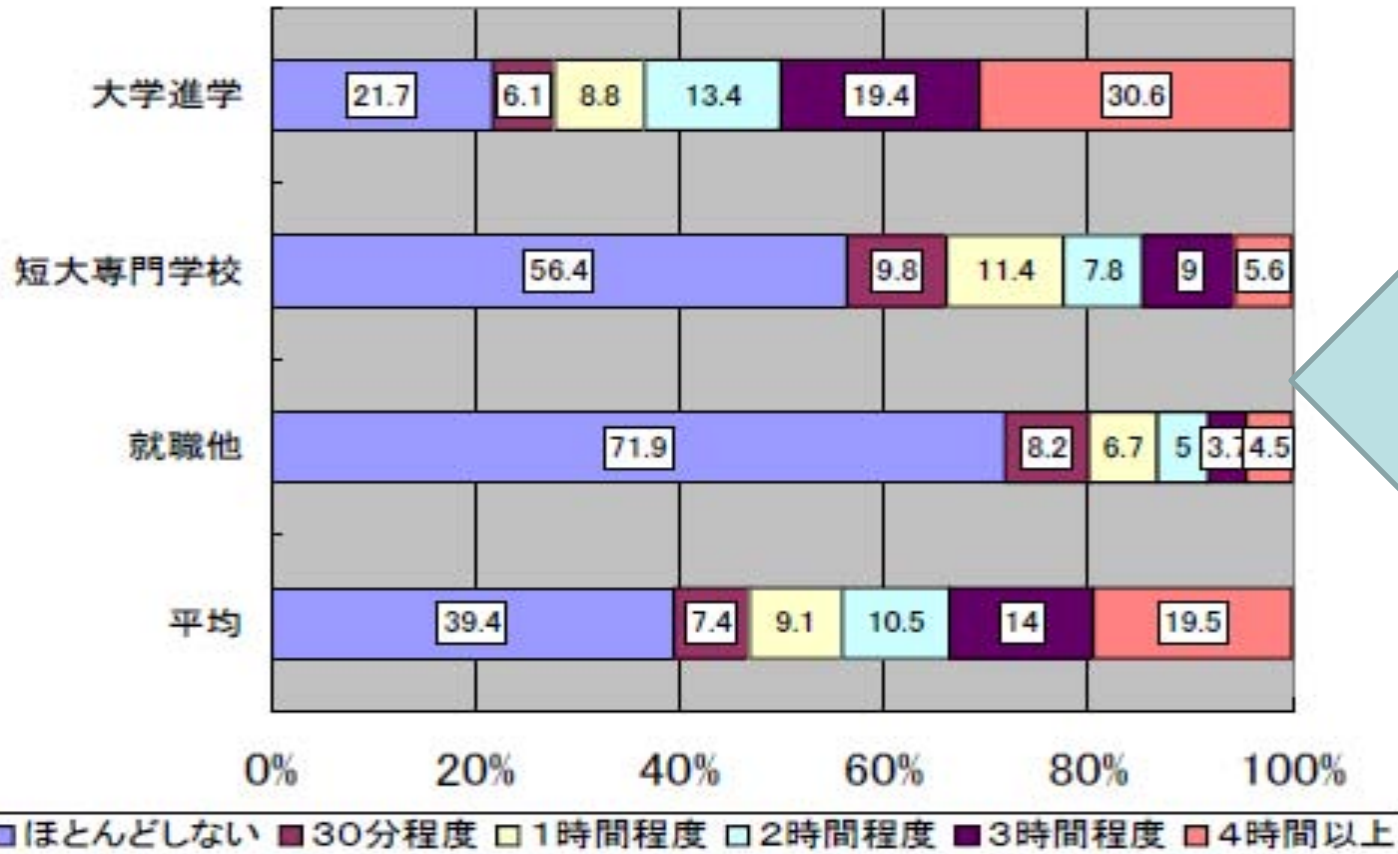
可能であれば、別の学部学科や大学・学校に行きたい



■とてもあてはまる ■あてはまる □あてはまらない ▨全くあてはまらない



高校教育の空洞化



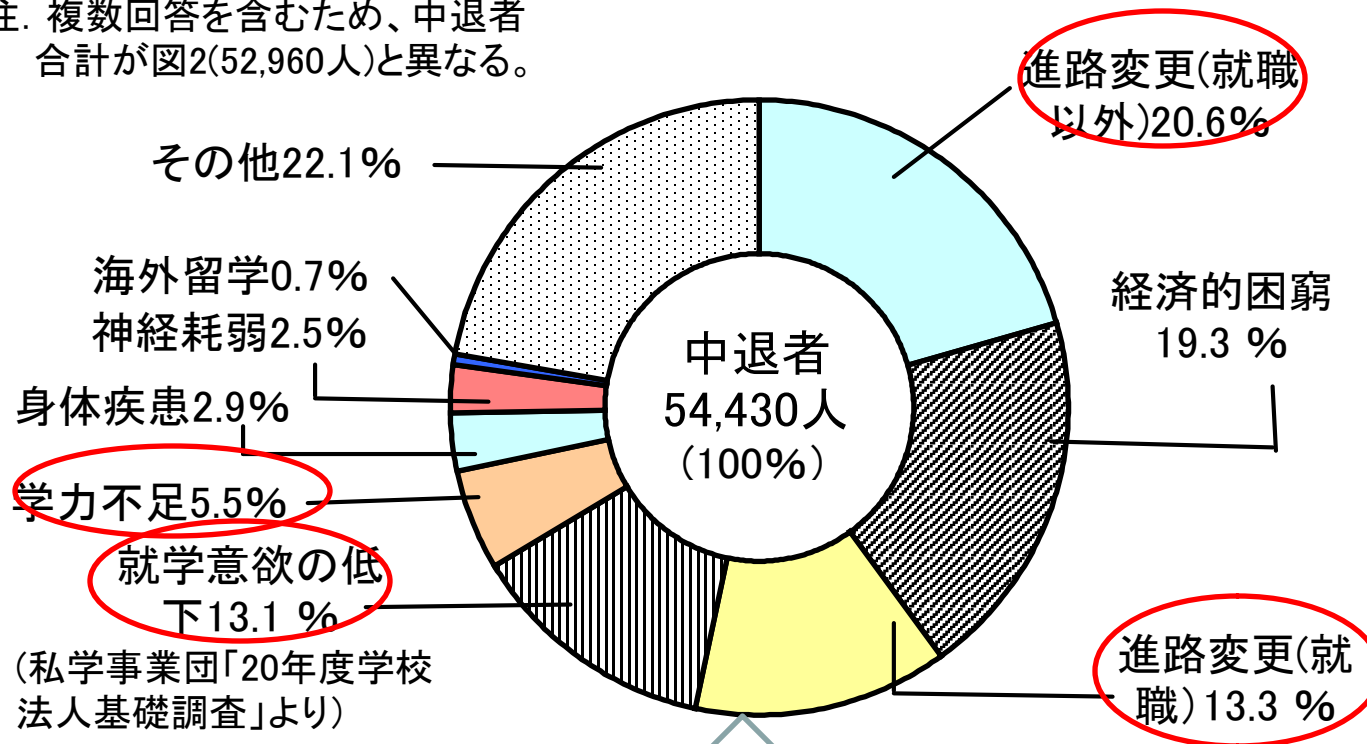
高校生に蔓延する学びからの逃避



学生にも大学にも不幸な状況

●19年度中退者の理由別構成比

注. 複数回答を含むため、中退者
合計が図2(52,960人)と異なる。



中退者の半数が高大接続上の問題による



検討の方向性

- 「選抜」から「選択」へ
- 「点(入試)」から「線(接続)」へ
- 「高大接続」から「K-16」へ



入学試験とは

- 入学後、CPを体験することによってDPを達成するだけの「資格Qualification」があるかどうかを検査すること。
- 「資格」= 知識・技能・態度など

認知的領域Cognitive Domain

知識・理解

思考・判断

← 一般入試

情意的領域Affective Domain

関心・意欲

態度

← 推薦、AO入試

精神運動的領域Psychomotor Domain

(B. BloomのTaxonomy)

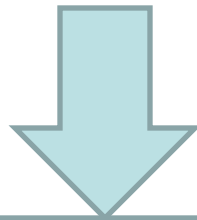
総合的
具体的な
Admission
Policy

現行
のAP



「選抜」から「相互選択」へ

- 総合的・具体的な要件を定めたAdmission Policyの確立
- 入学要件・入学後の学習機会・卒業後の進路などの情報公開



高校生と大学の相互選択



「点(入試)」から「線(接続)」へ



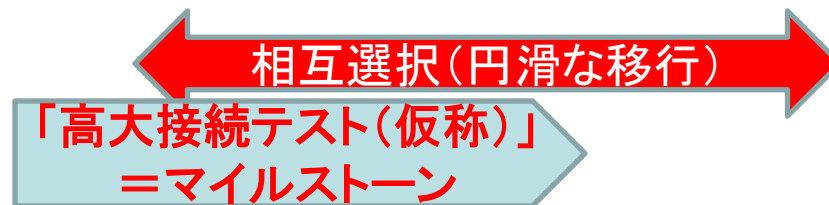
現行制度



現実



今後



日本の大学入試の特色

- (1) 各大学が、それぞれ入学試験を実施し、入学者を決定している。
- (2) 大学院の入試も含めて、原則、志願者は、希望する大学で受験しなければならない。
- (3) 学力試験を課す一般入試が大学入試の基本である。
- (4) 大学入試センター試験という、共通の問題による試験はあるものの、多くの大学は、入試問題を、それぞれ独自に作成し、実施している。
- (5) 大学入試センター試験も個別学力試験も、高等学校学習指導要領に準拠して出題することが求められている



平成24年度大学入学者選抜実施要項

(文部副大臣通知)



第1 基本方針

各大学は、入学者の選抜を行うに当たり、入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、高等学校の教育を乱すことのないよう配慮する。

能力・適性等の判定に当たっては、高等学校段階で育成される学力の重要な要素(基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学習意欲)を適切に把握するよう十分留意する。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

また、各大学は、当該大学・学部等の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。



平成24年度大学入学者選抜実施要項

(文部副大臣通知)



第1 基本方針

各大学は、入学者の選抜を行うに当たり、入学志願者に対する入学者受入方針を定めるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定する方法で実施するとともに、高等学校の教育を乱すことのないよう配慮する。

出題内容・水準における学習指導要領準拠

能力・適性等の判定に当たっては、高等学校段階で育成される学力の重要な要素(基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学習意欲)を適切に把握するよう十分留意する。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

また、各大学は、当該大学・学部等の教育理念、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明確に定め、これに基づき、入学後の教育との関連を踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

入試も「教育接続」が前提



第2 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)については、求める学生像だけでなく、高等学校で履修すべき科目や習得しておくことが望ましい資格等を列挙するなど「何をどの程度学んでほしいか」をできる限り具体的に明示する。

なお、明示する科目・資格等は、高等学校の内容・水準に十分配慮したものとする。



第2 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)について、
学生像だけでなく、高等学校で履修すべき科目
くことが望ましい資格等を列挙するなど「何をどの程度字ん
できてほしいか」をできる限り具体的に明示する。

入試も「教育接続」
が前提

なお、明示する科目・資格等は、高等学校の内容・水準に十分配慮したものとする。



高等学校学習指導要領の改訂

- 中教審「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について(答申)」(1991年)
 1. 高校の**多様化**(高校教育の画一性への対応)
 2. 高校の教育課程の一層の**弾力化**(大学進学準備偏重への対応)
 3. 大学入試における評価尺度の**多元化・複数化**

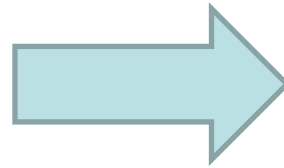


教育上の高大接続への言及なし



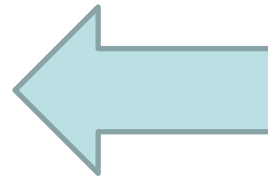
学習指導要領と大学入試のダブル・バインド？

高等学校の学
習指導要領



大学入試の
内容と水準

高等学校の
教育課程



大学入試をめぐるトラブル

- 出題ミス、採点ミス
- 作題の限界
- 携帯カンニング
- 東日本大震災時の混乱
- 昨年のセンター試験の混乱



入試制度のオーバーホールが必要



改革の方向性(私案)

1. 「ダブル・バインド」の解消

(1) 高校教育の修了試験＝大学入学資格(イギリスのAレベル、フランスのバカロレアなど)

(2) 大学進学準備検査(アメリカのSAT, ACTなど)

2. 共通試験による学力保証

3. 素点から段階判定へ(入試の哲学の違い)

①素点方式:「落とす」試験(集団準拠)

(定員制度)※どんな試験でも10%の誤差が含まれる

②段階方式(資格試験):「入れる」試験

4. 共通試験＋丁寧な選考(論文、面接など)

5. 入試時期の変更(3月から4月における学務の繁忙化)



改革に伴う課題

- 共通試験の在り方(教科ベースか汎用能力か)
- 作題、実施主体(高校、大学あるいは協同)
- 入学者選考専門家の養成
- 検定料収入(とくに私学)

※大学入試に伴うコスト(5万円×60万人＝300億円)

- 「公平感」「平等感」



日本版K-16

「入学の国」から「卒業の国」へ

大学教育

Chasm

高校教育

中学校教育

小学校教育

幼稚園教育

21世紀のコア・コンピテンスを核にした教育システム(K-16)の再構築

大学教育

高校教育

中学校教育

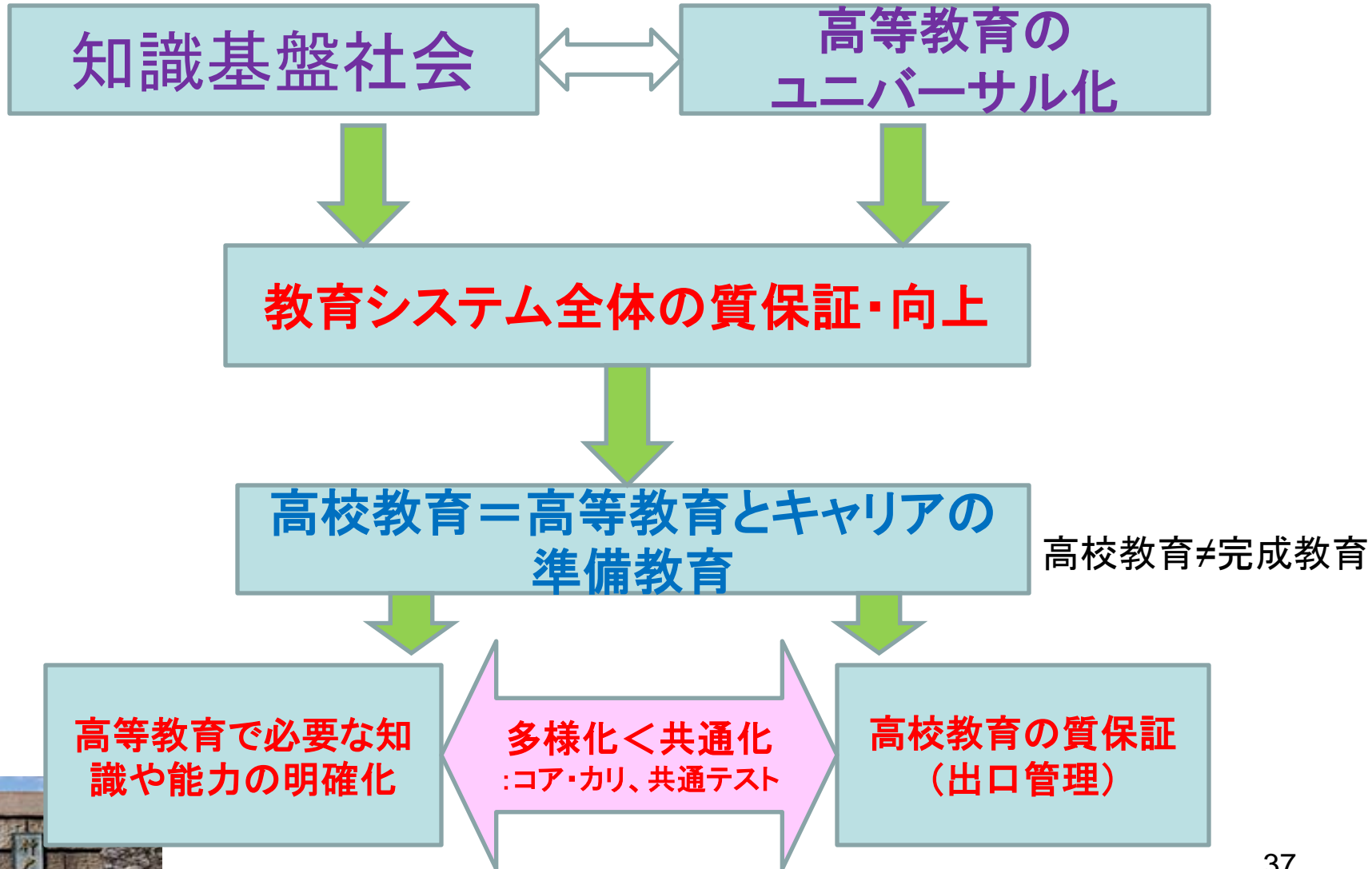
小学校教育

幼稚園教育

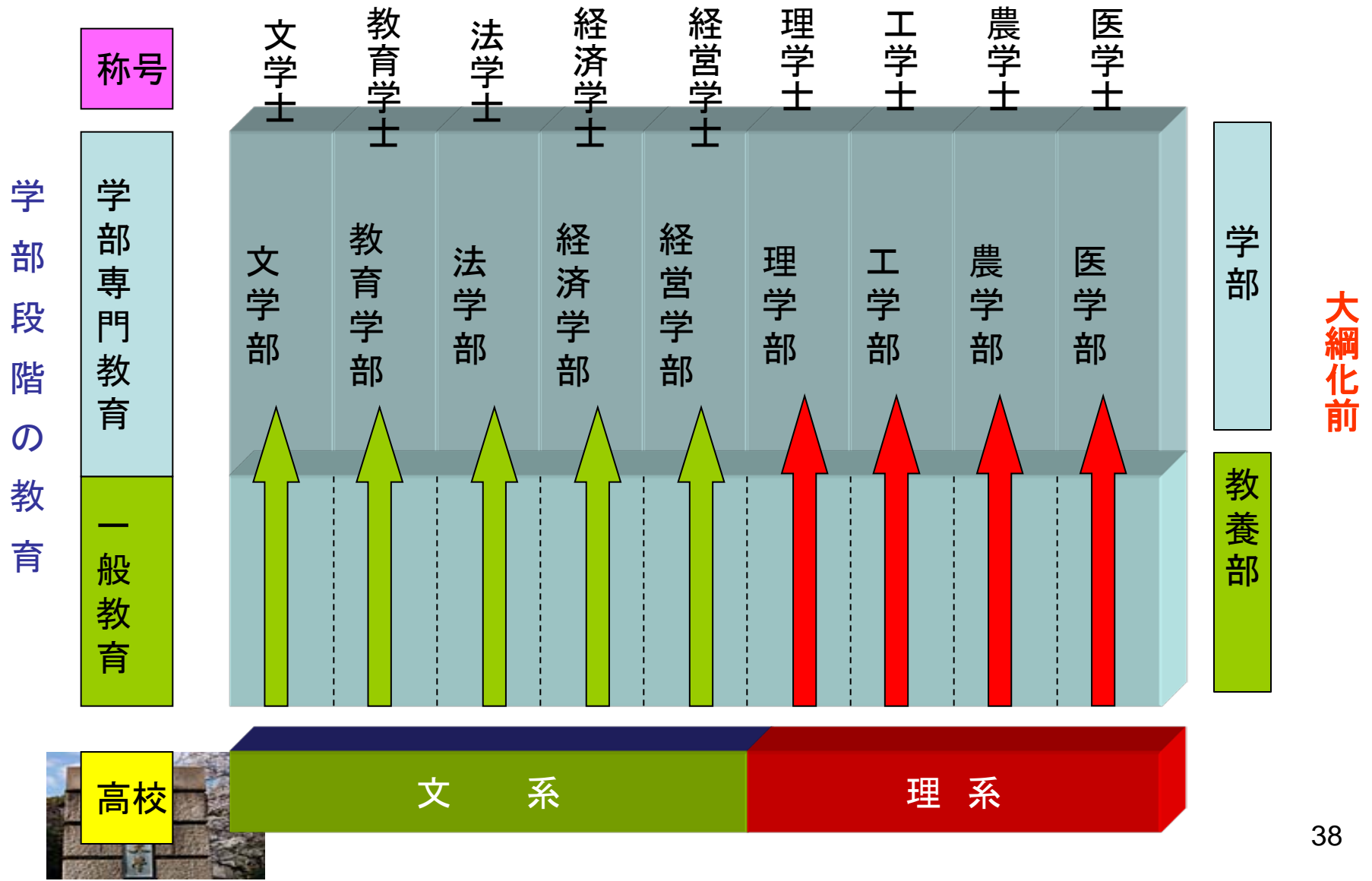


※米国ACTが、小1から高3まで共通の学力を測定するテストを開発

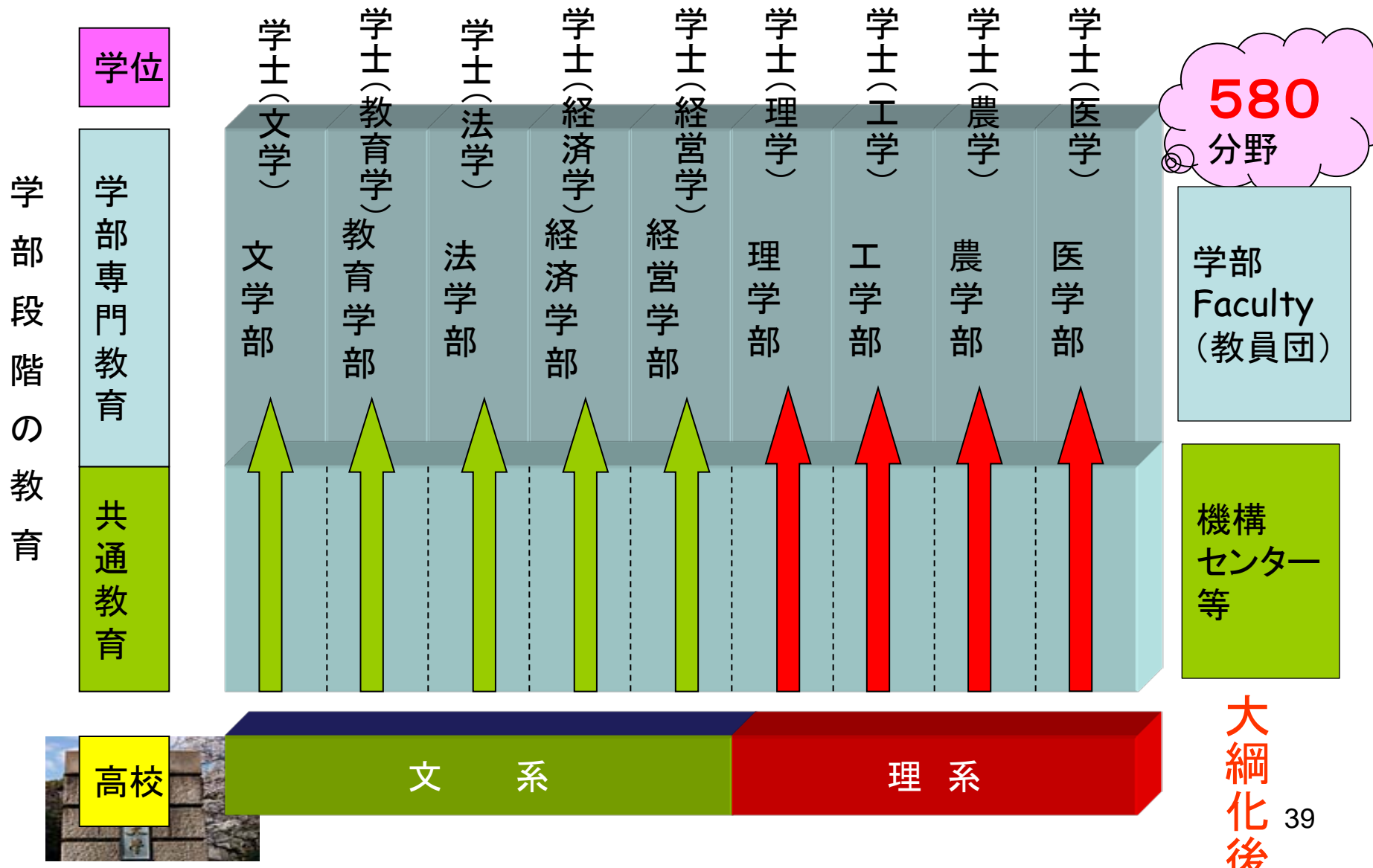
「高大接続」から「K-16」へ



高大接続からみた学士課程教育



高大接続からみた学士課程教育



学位

学部専門教育

共通教育

学部段階の教育

高校

文系

理系

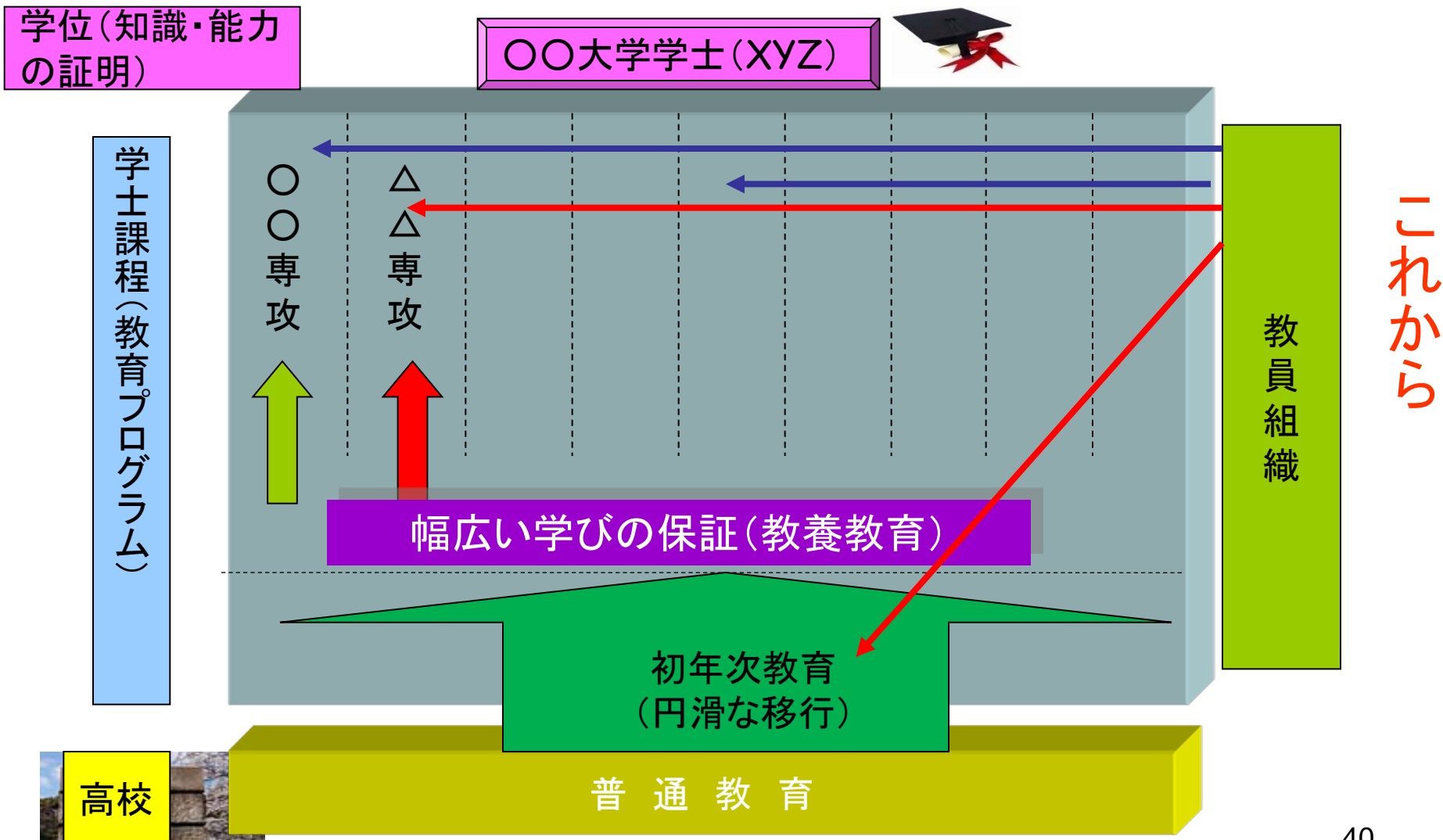
580
分野

学部
Faculty
(教員団)

機構
センター
等

大綱化後

高大接続からみた学士課程教育





世界思想社



東北大学出版会



ご清聴ありがとうございました

tatsuo@kobe-u.ac.jp

